

上江津湖の野鳥の季節変化と環境

熊本マリスト学園中学校 2年・1年 サイエンス部

1 研究の目的

(1) はじめに

私たちの学校の近くにある江津湖では、熊本に来る野鳥の約半数の種類が見られると聞いた。季節による野鳥の種類の違いはあるのだろうか。江津湖は広いので、上江津湖に絞って観察を行うことにした。さらに、野鳥を通して江津湖の環境についても知りたいと思い、調査を始めた。

(2) 目的

上江津湖に来る野鳥を調べ、野鳥を通して上江津湖の環境を考える。

ア カモ類の種類ごとの観察される時期や数の違いを調べる。

イ カモ類以外の野鳥の季節変化を調べる。

ウ それぞれの野鳥の住む環境について調べる。

2 研究の方法

調査は、2013年11月～2014年10月まで月1回、午前9:00～12:00の間に上江津湖の決まったルートを歩き、双眼鏡と望遠鏡で約2～3時間の観察を行った。確認された野鳥の種類と数、その鳥のいた環境を記録した。また、観察した野鳥は光学40～60倍のコンパクトデジタルカメラで撮影した。

3 結果

下の表に各月に観察した野鳥の種類と数を示した。

江津湖の鳥調査														環境	分類
No.		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
1	オカヨシガモ	25	0	6	43	23	20	0	0	0	0	0	0	水面・飛行	カモ科マガモ属
2	ヨシガモ	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3	水面・飛行	カモ科マガモ属
3	ヒドリガモ	199	406	468	407	420	87	1	1	0	0	1	212	水面・飛行	カモ科マガモ属
4	アメリカヒドリ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水面・飛行	カモ科マガモ属
5	マガモ	3	6	11	8	18	1	0	0	0	0	0	4	水面・飛行	カモ科マガモ属
6	カルガモ	0	0	3	0	0	0	2	10	6	0	3	0	水面・飛行	カモ科マガモ属
7	ハンビロガモ	10	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水面・飛行	カモ科マガモ属
8	キンクロハジロ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	水面・飛行	カモ科スズガモ属
9	シマアジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	水面・飛行	カモ科マガモ属
10	カイツブリ	22	17	30	8	1	31	17	14	9	7	2	0	水面・飛行	カイツブリ科カイツブリ属
11	ドバト	4	37	85	92	2	42	23	9	11	3	7	8	地上・飛行・樹上	ハト科カワラハト属
12	キジバト	2	3	3	0	2	3	6	0	0	5	0	0	地上・飛行・樹上	ハト科キジバト属
13	カワウ	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	飛行	ウ科ウ属
14	ササゴイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	水辺	サギ科ササゴイ属
15	アオサギ	4	6	4	6	1	3	6	1	3	3	3	3	水辺・飛行	サギ科アオサギ属
16	ダイサギ	2	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	水辺・飛行	サギ科アオサギ属
17	チュウサギ	0	0	0	1	1	0	3	2	1	7	3	0	水辺・飛行	サギ科コサギ属
18	アマサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	水面・飛行	サギ科アマサギ属
19	バン	15	5	7	5	1	2	7	2	1	3	2	5	水う辺・飛行・水面	クイナ科バン属
20	オオバン	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0	1	0	水面・飛行	クイナ科バン属
21	クロツラヘラサギ	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	水面	トキ科ヘラサギ属
23	コチドリ	0	0	6	3	0	6	0	0	0	0	0	0	地上・飛行・干潟	チドリ科コチドリ属
24	タシギ	0	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	水面	シギ科タシギ属
25	チュウシャクシギ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	水面	シギ科ダイシャクシギ属
26	クサシギ	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	水面	シギ科クサシギ属
27	イソシギ	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	水面	シギ科イソシギ属
28	ユリカモメ	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	飛行	カモ科カモメ属
29	モズ	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	飛行・樹上	モズ科モズ属
30	ハシボソガラス	12	18	13	16	4	25	8	7	2	27	1	4	地上・飛行・樹上	カラス科ハシボソガラス属
31	ハシブトガラス	1	4	0	1	4	2	3	2	0	2	0	5	地上・飛行・樹上	カラス科ハシブトガラス属
32	ハクセキレイ	9	12	2	12	1	2	0	0	0	0	0	1	地上・飛行・干潟	セキレイ科ハクセキレイ属
33	セグロセキレイ	5	8	17	10	1	2	1	0	0	0	0	3	地上・飛行・干潟	セキレイ科ハクセキレイ属
34	ヒヨドリ	1	2	4	3	1	0	0	0	0	0	3	0	飛行・樹上	ヒヨドリ科ヒヨドリ属
35	ムクドリ	0	88	23	59	3	14	69	21	6	3	1	0	地上・飛行・樹上	ムクドリ科ムクドリ属
36	ジョウビタキ	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	飛行・樹上	ツグミ科ジョウビタキ属
37	スズメ	0	37	0	7	9	13	0	96	10	6	3	5	地上・飛行・樹上	スズメ科スズメ属
38	カワセミ	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0	1	1	飛行・水辺	カワセミ科カワセミ属
39	ツバメ	0	0	6	5	0	2	3	7	3	4	2	0	飛行	ツバメ科ツバメ属
40	オオタカ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	飛行	タカ科ハイタカ属
41	ウグイス	0	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	樹上	ウグイス科ウグイス属
	一ヶ月の集計	315	675	728	723	509	314	150	173	55	74	35	256		

水鳥としては、カモ科 9 種類、サギ科 4 種類、シギ科 4 種類、セキレイ 2 種類などがみられた。水鳥以外では、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、ウグイスなどが見られ、タカ科のオオタカも確認された。1 年間を通して観察された種は 41 種だった。上江津湖を多くの鳥が利用していることが分かった。

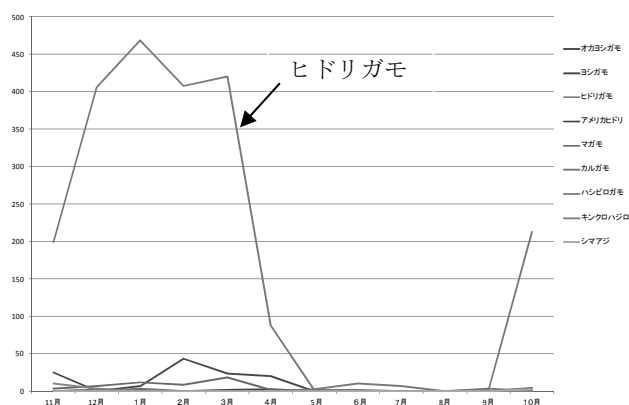
(1) カモ類について

これまでの 1 年間の観察で 9 種類のカモが確認された。カルガモ以外は冬鳥であり、種類ごとの観察された期間をまとめると以下ようになる。

オカヨシガモ 11 月～4 月 ヨシガモ 10 月～4 月 ヒドリガモ 10 月～4 月
アメリカヒドリ 12 月～1 月 マガモ 10 月～4 月 ハシビロガモ 11 月～12 月
キンクロハジロ 12 月 シマアジ 10 月

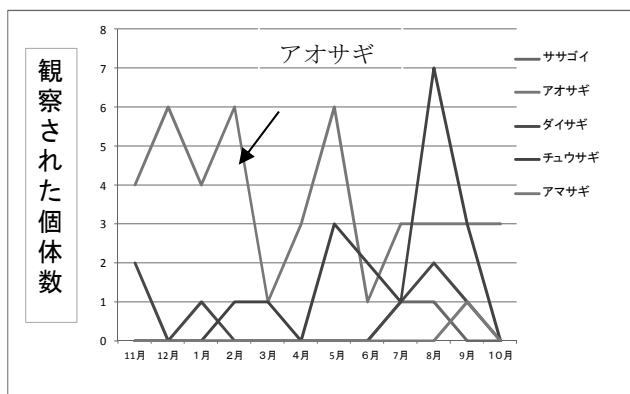
このことから、それぞれのカモが上江津湖にいる時期には違いがあることがわかる。カルガモは図鑑によると留鳥になっており、私たちの調査でも夏、冬の両方でみられた。

最も多く観察されたのはヒドリガモで、468 羽だった。以下の表より、その月（1 月）の野鳥の合計飛来数は 698 羽であるから、全体の約 67%をしめる結果である。



(2) カモ類以外について

水鳥では、サギ科が 5 種観察され、上江津湖で 1 番よく確認されたのはアオサギだった。シギ・チドリの仲間 5 種は 11 月～5 月にみられ、上江津湖では冬鳥のようであった。セキレイ科 2 種は 10 月～5 月に確認され、冬によく確認された。



(3) 環境について

私たちの調査で世界中に 2000 羽程しかいない絶滅危惧種クロツラヘラサギを観察した。クロツラヘラサギは上江津湖では 12 月～2 月でみられ、冬鳥と思われる。またこのことから、江津湖は希少な鳥が来るほど、餌が豊富で恵まれた環境だということが分かった。しかし、数年前に釣り糸・釣り針で傷つき、保護されたクロツラヘラサギもいたと聞いた。私たちの調査でも、9 月と 10 月で片足を失ったアオサギを確認した。このアオサギも同じように傷ついたと考えられる。江津湖は豊かな自然に恵まれているが、その反面、野鳥たちにとっては安心して暮らせる環境とは言えない。

4 考察

1 年間の調査で 41 種類を観察することが出来、種類によってみられる時期に違いがあることが分かった。また、釣り人が残した釣り針などが野鳥を傷つけていることも分かったので、環境に配慮した行動が大切である。

